



福井県社会福祉協議会 アクションレポート

令和6年9月18日 No.13

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会 総務企画課
〒910-8516 福井市光陽2丁目3-22
TEL 0776-24-2339 / FAX 0776-24-8941 / E-mail somu@f-shakyo.or.jp

このアクションレポートは、本会の主な事業等の進捗を定期的にお知らせするために、役員および関係機関向けに発行させていただくものです。

Contents

- ✓ 災害支援でつながる社会福祉法人
～能登半島地震における被災地支援の取組みを共有する～
- ✓ 初の派遣で苦悩しながらも被災者の心に残る活動を展開
- ✓ 今春もタイから12名を受け入れ！介護の現場で活躍中
- ✓ 新たな人材確保を！「ちょこっと就労」障がい分野へ拡大
- ✓ 子ども未来支援事業、福井県まごころ基金助成先決定！
- ✓ 東海北陸6県から保育関係者約700名が福井市に集合！
- ✓ オンライン研修で受講者数大幅アップ!!（介護実習・普及センター事業）
- ✓ 研修受講サポートシステムで学び・効果を「見える化」

災害支援でつながる社会福祉法人

～能登半島地震における被災地支援の取組みを共有する～

基本目標4

新たな課題に取り組む
組織・ネットワークづくり

5つのチャレンジ⑤

災害時福祉救援体制の強化

関連するSDGsゴール



8月21日（水）、福井県生活学習館において「令和6年度社会福祉法人トップセミナー」を開催し、県内社会福祉法人の役職員約80名が参加しました。

本会がすべての社会福祉法人を対象に、災害を切り口とした法人間のつながりづくりをテーマとしたセミナーとしては、今回が初めての開催となりました。

基調講演では、関西の社会福祉法人を中心に、能登半島地震で被災した社会福祉施設・事業所への支援を行っている「能登福祉救援ボランティアネットワーク」共同代表の石井布紀子氏から、「被災地に寄り添い、能登で踏ん張る社会福祉法人への支援と連携から見てきたこと」というテーマで講演いただきました。



石井氏による基調講演

その後のリレートークでは、県社協、県老人福祉施設協議会、県身体障害者（児）援護施設連絡協議会、県知的障害者福祉協会から能登半島地震の被災地支援の取組みについて報告があり、支援をする側・受ける側双方の課題を共有しました。

このトップセミナーの開催をキックオフとして、今後、災害を切り口にした市町域での法人のつながりづくりについて、意見を交わすきっかけづくりとなることを期待します。

リレートーク



初の派遣で苦悩しながらも被災者の心に残る活動を展開

本会が事務局を担う福井県災害派遣福祉チーム（福井DWA T）は6月27日、福井県社会福祉センターで、能登半島地震の被災地に派遣されたチーム員による活動報告会を開催しました。

パネルディスカッションでは、金沢市の1・5次避難所や輪島市の避難所で活動したチーム員3人が、初の派遣で被災者や現地の行政関係者らとの信頼関係づくりに苦悩しながらも、親身になって対応することで頼られる存在になっていったことなどを報告。避難生活を続ける人へのさりげない気遣いをきっかけに気楽に話せる関係を築き、帰福時に見送りに来てくれたエピソードも紹介しました。研修では想定されていなかった1・5次避難所での活動や活動拠点の開設にも携わった経験を踏まえた提言などもあり、事務局としても今回の派遣で得られた成果や課題を整理し、今後の体制の強化に努めてまいります。

基本目標 1

社会的孤立を生まない
地域づくり

基本目標 3

制度の狭間を生まない包括
的支援体制づくり

5つのチャレンジ⑤

災害時福祉救援体制の強化

関連するSDGsゴール



DWAT 活動報告会

今春もタイから 12 名を受け入れ！ 介護の現場で活躍中

基本目標 2

地域と福祉を支える
担い手づくり

5つのチャレンジ③

福祉・介護で働く
在日外国人への支援

関連するSDGsゴール



本会では、県や県介護福祉士会と連携して、県内介護事業所へのタイ人技能実習生の受入れ支援を行っています。

5月10日には第5期生となる12名が入国し、約1か月の入国後講習を経て、6月13日から県内7事業所で3年間の実習を開始しました。

令和4年4月に第1期生6名が入国して以降、これまでに39名（県内16事業所）の受入れ支援を行っています。実習施設の丁寧な指導や本人の努力もあり、介護現場で不可欠な存在として活躍中です。人材確保の観点のほか、実習生が熱心に介護に励む様子を見て、リピートで実習生を受け入れる事業所が増えてきました。

今後も本会では、毎年春と秋の2回、定期的な受入れ支援を行い、県内の介護人材確保に取り組んでいきます。



第5期生 入国後講習 開講式

新たな人材確保を！ 「ちょこっと就労」障がい分野へ拡大

基本目標 2

地域と福祉を支える
担い手づくり

関連するSDGsゴール



福井県福祉人材センター・嶺南福祉人材バンク無料職業紹介所では、福祉施設での補助的な業務（食事の配膳・下膳、清掃、衣類の洗濯、活動の見守り、送迎車の運転など）に従事するパートタイム就労で専門職の業務負担の軽減、施設の人員不足解消等を図ることを目的とする「ちょこっと就労」を、平成29年度より介護施設で導入しました。

令和6年7月から「ちょこっと就労」が障がい分野へ拡大し、「ちょこっと就労」参加事業所を対象に、就職面談会の開催および、求人広告費や採用活動に係る費用の助成を行います。

今後「ちょこっと就労」就職面談会での積極的なマッチングを行うほか、助成制度の活用を呼び掛けるなど、事業所の積極的な採用活動の支援を行い人材不足解消へ、幅広い人材のマッチング支援を行ってまいります。



就職面談会の様子

子ども未来支援事業、福井県まごころ基金 助成先決定!

【子ども未来支援事業「子ども食堂等への助成」】

子ども未来応援バンクや松原ふれあい基金を活用し、地域における子どもの健やかな育ちや自立を支援するため、子どもの居場所づくりに取り組む団体や社会的養護児童の自立支援に対して助成する事業です。

そのうち、子ども食堂等の立ち上げ助成として、平成28年度から昨年度までに、計16団体に助成を行ってまいりました。

今年度は、5団体に各200,000円の合計1,000,000円の助成が決定しました。



子ども食堂
(子ども未来支援事業による助成)

基本目標1

社会的孤立を生まない
地域づくり

基本目標2

地域と福祉を支える
担い手づくり

5つのチャレンジ②

ひきこもり・8050問題への
理解促進と支援の輪づくり

関連するSDGsゴール



【令和6年度（第34回）福井県まごころ基金助成事業】



高齢者サロン（まごころ基金助成）

県内篤志家からの寄付金を運用し、県内の民間福祉団体等が実施する様々な社会福祉活動等に対して助成し、もって県内の地域福祉を推進するもので、平成3年以来、のべ995団体に対して合計1億7千万円を超える助成を行ってまいりました。

今年度は、6団体に合計893,000円の助成が決定しました。

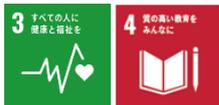
本会では、基本理念である「誰もが身近な地域で その人らしく 安心して暮らせる 福祉社会の実現」に向け、民間福祉団体等の創意工夫ある活動や地域に密着したきめ細かな活動に、助成というかたちで支援をしています。

これらの事業を通じて、多様な団体が地域でそれぞれ得意とする活動を行うことにより、支え合いと活気のある地域社会を目指しています。

東海北陸6県から保育関係者約700名が福井市に集合！

基本目標3
制度の狭間を生まない包括
的支援体制づくり

関連するSDGsゴール



7月18日（木）、19日（金）アオッサ他（福井市）にて、東海北陸6県の保育関係者約700名の参加のもと「第65回東海北陸保研究大会『福井大会』」を開催しました。

1日目は、8つのテーマ（「新たな時代の保育実践」、「配慮を必要とする子どもや家庭への支援」他）設定による分科会を行い、日ごろの保育実践を通じた気づきや課題に関する意見発表のあと、グループ討議による熱心な意見交換や助言者からのまとめを聴講し、専門職としての使命を確認しました。



分科会の様子



矢藤氏による記念講演

また、2日目の全体会では、福井市幼児教育研究会が、「自己評価を通して保育の質の向上をめざす ～楽しく対話を～」をテーマに研究発表を行ったほか、記念講演では、和洋女子大学の矢藤教授から「地域で保育の質を高める～すべての子どものよりよい育ちのために～」をテーマに、保育の質向上・改善・充実へ向けて、研究発表の講評も含めながら具体例を交えて教示いただきました。

大会最後には、大会宣言が読み上げられ、教育・保育の質の向上に向けた決意を参加者全員で確認し、明日からの実践に向けて気持ちを新たにしました。

オンライン研修で受講者大幅アップ!! (介護実習・普及センター事業)

介護実習・普及センターでは、コロナ禍を機に始まったオンライン研修をスタンダードな研修として定着させ、介護技術向上研修では、すでに昨年度実績を上回る結果となっています。

場所を問わず、移動時間の拘束もなく、どこにいても学習できるオンライン研修は、事業所から高評価です。

実技・演習の実践型研修には不向きと言われるオンライン研修ではありますが、講師からの一方的な講義にならないような工夫や、限られた人だけが意見を言うことのないような仕掛け、カメラを使った実技指導など、飽きのこない手法で取り組んでいます。

外国籍の職員の申込みも増加しており、介護事業所における多様化も実感しています。

また、希望する場合は事業所に出向き、対面・集合で行う訪問指導研修の活用ができます。

オンライン研修と対面・集合研修のメリットを活用し、今後も引き続き、福祉を支える担い手づくりに取り組んでいきます。



多数のカメラを配置してのオンライン研修

基本目標 2
地域と福祉を支える
担い手づくり

5つのチャレンジ③
福祉・介護で働く在日
外国人への支援

関連するSDGsゴール



研修受講サポートシステムで学び・効果を「見える化」

福井県社会福祉研修所では、Webによる「研修受講サポートシステム」を導入しています。研修案内、申込受付、名簿作成業務をシステム化し、正確で迅速な事務処理をすることが可能になりました。

また、同システムを使用して、研修受講者の生涯にわたる研修受講履歴を管理しています。現在、およそ5,400人の受講履歴を管理しており、福祉施設・事業所のみなさまもシステムから職員の研修を受講した履歴を確認できます。

今後も福祉職員が研修で身につけた専門的知識・技術の履歴を管理して、研修受講の学び・効果の「見える化」に取り組んでまいります。



基本目標 2
地域と福祉を支える
担い手づくり

関連するSDGsゴール

